



発行者
板野中学校
学習会
編集・文責：吉成正士

ながらくお休みさせていただきました。^{もう わけ}申し訳ございません。みなさんいかがお過ごしでしょうか？^{か ぜ}風邪なんかひいていませんか？

実は今回2週分ほど休ませていただいたのは、仕(私)事^{いそが}が忙しかったということと、全^{ぜん}同研(全国同和教育研究大会:11月29日～12月2日)に行っていたということからなのです。

今年の全同研は九州の長崎県であったのですが、暖かいと思われてた九州が、実はメチャメチャ寒くって、風は吹くは、気温は下がるは、みぞれは降るは、雪まで降って積もるほどでした。そんな^{ここ}凍えるようななか、研究大会が行われたのです。長崎では、ずっと板野東・西・南小学校の先生方とも一緒に、共にワイワイ言いながら研^{けんしゅう}修を深めることができました。こういう風^{ふう}に書くといえらく楽しそうに感じるかもしれませんね。確かに楽しかったのですが、朝は7時前に起きて、夜までずっと同和教育^{どうがく}漬^つけの毎日だったんですよ。それがまた楽しかったんです。全国にはいろんなすごい人がいるものです。そういう人たちの話や実践^{じっせん}を聞くと、「ああまだまだやなあ、もっとやらな!」と思ってしまったりしました。来年は熊本県であるそうなので、それまでに板中もいろんな取り組みを重ねながら、その出来事を報告できればと思います。みなさん、がんばんべえ～!

◇ おまけ!! ◇

実は全同研の帰りに、雪の積もる広島に降りて、八ツ塚^{や つかみのる}実先生のお宅にうかがいました。八ツ塚先生のことについては、MY SKY第3号にも載せていますが、そのお宅にうかがったのです。そのお宅(資料館のような家)には、^{ところせま}所狭しと、^{きようざいきようぐ あふ}いろんな教材教具が溢れていました。それはまるで、「アルプスの少女ハイジ」に出てくる、フランクフルトのクララの家の^{かく べや}隠し部屋^{でんとうこうげいひん}のようでした。わからんかな?何百枚にもおよぶ写真パネル。全国から集めた^{ちきゅうぎ}伝統工芸品。いろんな種類の地球儀。博物館とも思えるような、いろんな動物の頭蓋骨。鈴^{すず}のようなかわいい音色^{ねいろ}の楽器。本当にあらゆるモノがありました。そして八ツ塚先生が現役教師であった頃、これらの一見^{いっけん}バラバラに見えるモノをすべてが、同和教育、人権教育、平和教育の題材として、人間科の授業^{かつよう}に活用されたのだそうです。私もいい加減^{か げん}、「な

んでこれと同和教育が関係あるんな！」と言われてしまうようなお話をするところがあるのですが、八ツ塚さんはその度合いをさらに越えているようでした。今回は時間があまりなくってじっくり見れませんでした。ぜひとも次回を作って、また遊びに行きたいと思います。誰か一緒に行く人いませんか～！



◎知ってますか？止揚学園(福井達雨「嫌われ、恐がられ、嫌がられて-障害児差別と共に25年」)

みなさんは止揚学園という学校を知っているでしょうか？

福井達雨さんが「障害」児(者)差別問題に取り組むなかで、自らが理想とする学校をつくり、「障害」を持つ人々とかかわる日々を今もなお歩んでいます。そんな生きざまは多くの人々の関心を呼び、「障害」児(者)差別を解消するため、常に私たちを導いてくれる存在となっています。そんな福井さんや止揚学園は、「リバティーおおさか」でも紹介されていますが、ここでその一端を知っていただくために、福井さんの文章を抜粋し、紹介したいと思います。

「共に歩む」

私は、義人、生、啓示という三人の男の子どもをもっています。

この三人は、私や皆さんや、皆さんのお子さんの一つだけ違うところがあります。それは、私たちは、障害をもたない人間世界の中で生きた、障害をもたない人間ですが、この三人の子どもは、障害をもった子どもの中で生きた、障害をもたない子どもです。

(中略)

私は、この25年、障害児差別撤廃の闘いをし対外評価は、「妥協もしないで、生命も持っているものも総てぶつけて激しく闘った人間だ」と言われるようになりましたが、実は、それは嘘です。

私は、今も、障害児を差別する世界から抜け出すことが、どうしてもできません。それを私は、長男や次男から教えられます。教育というのは、教えることでもなくて教えられることなんですね。

たとえば、今、止揚学園にはたくさんの子どもの遊びにくるようになりました。それでも止揚学園の子どもがブランコに遊具に乗っていると、町の子どもの乗れません。

「おい、乗れよ」

と僕が言うと、

「おっちゃん、あの子、アホでかわいそうやろ。僕、乗りたいけれども辛抱^{しんぼう}してな、
あの子に譲^{ゆず}ったるわ」

と言うのです。

幼稚園や保育所や小学校で、「かわいそうな子に、遊具を譲って親切にしてあげましょう」という教育を受けているので、「譲ってやるわ」と言うのです。おそらく、幼稚園や保育園や小学校では、良い子どもの代表だと思います。

そこへ、私の長男や次男が来るとどうなるかという、あの重い障害をもった子どもをブランコから突き落^おとしてしまい、喧嘩^{けんか}になるんです。そして、言ってもわからないのに、

「お前、ずるいぞ。一人じめにしたらいかん。皆、順番に乗らんといかんぞ」

と教えているんです。

おそらく、今の小学校や幼稚園、保育園の教育だったら、「あのかわいそうな子どもをいじめる、いじめっ子で悪い子どもだ」と道徳の中で、悪い子どもの代表にさせられると思います。

しかし、私は、反対だと思います。町の子どもにとっては、障害児たちは差別をした子どもですから、だから、譲ってやることができるんです。しかし、私の長男や次男にとってはこの子どもたちは自分の仲間であり、友だちだから、喧嘩になるんだと思います。

私は、どっちが正しい行動をし、正しい方向をもっているかと、こんな時、考えてしまいます。

先日、私は、長男と次男と汽車に乗りました。友だちもいました。しばらくすると、重い知恵おくれの子どもが乗ってきて、「キーキャー、キーキャー」騒^{さわ}ぎ出しました。

私はどうしたかという、(かわいそうだ見てはいけない)と思って、下を向いてしまいました。

そしたら、次男の生が、

「お父ちゃん、あすこ見てみいな。重い知恵おくれの子どもが乗ってるよ」

と言いました。隣^{となり}の友だちが、

「ひどいことを言う子どもやなあ」

と言ったんですが、平気な顔をして、また、

「見てみいな、お父ちゃん、あすこに知恵おくれの子どもが乗っているよ」

と言い、しばらくすると、長男、次男で、バタバタと走って行って、その子どもと遊び出しました。

その重い知恵おくれの子どもは「キーキャー、キーキャー」言わなくなりました。それでも、私は下を向いていました。(かわいそうだから見てはいけない)と思っていました。

先日、町を歩いていたら、盲人の方が、ウロウロ道でされていました。長男が一緒にいたので、

「義人、あの人が見えなくてかわいそうだから、助けてこい」

と言うと、

「お父ちゃん、どうしてあの人がかわいそうや」

と長男が聞きました。

「そら、目が見えへんから、何にもわからへんから、かわいそうやないか」

と私が言うと、

「どうしてやねん、お父ちゃん。あの人が、道がわからなくて困ってはるだけやで。道を教えたらいいんやろ。何にも、かわいそうなことあらへんで」

と言うんです。

私は、長男の言葉を聞いて、愕然としました。私は、障害児差別の難しい理論を頭の中にもち、25年も、障害児差別撤廃の闘いを現場で押し進めてきた人間です。

私の長男、次男は、あの子どもたちと一緒に生活する中で、正しい障害児観、人間観を身につけてきました。しかし私は、今もこの子どもたちを差別する世界から抜け出すことができないでいるのです。今、その私に対して、とっても厳しい怒りをもっています。

私は、幼稚園や小学校で、「かわいそうな子どものために、親切にしましょう」という教育を受けてきました。しかし、「この子どもたちを差別して不幸にしたのは、達ちゃん、あんただよ。だから、あの子どものところへ行っておやまってきたさい。そして、あの子どもと共に歩みなさい」という教育は受けませんでした。

私が手を上げました。先生が、

「何ですか」

と聞かれるから、

「あの子がかわいそうやで、靴をはかしたったんや」

と言うと、

「良いことをしましたね」

と、先生たちは、皆頭をなでて下さいました。嬉しかったので、今度かわいそうな子どもがいたら、もっと親切にしてやろうと思ったんです。その気持ちが、障害をもった人たちや知恵おくれの子どもたちを不幸にしてしまったと思います。

私は、「ために」という教育は受けましたが、「共に」という教育は、小さい時から受けてこなかったのです。

〔解 説〕

福井達雨さんは、1960年重い知恵おくれの子どもの施設として、止揚学園を設立し、学生時代より障害児差別問題にとりくみはじめてから25年になる。

「障害」を持つ人々の社会における立場は、本当に弱いものとなっています。就職難といわれている昨今では、その実態はさらに厳しく、能力があるにもかかわらず、自分の希望する職種に就けていない度合いは、非常に高いのです。本当は企業は、雇っている人数のなかの一定の割合で、「障害」を持つ人を雇わねばならないのですが、それも守られていません。もし守っていなければ罰則金を払わねばならないのですが、その罰則金を払ってでも、雇わないのだそうです。まさに、抜け穴だらけの制度ですね。私の知っている、今年養護学校の高等部を卒業する友達も、就職について苦悩の真っ直中にいます。今のままでは、「障害」をもった人々が集まる作業所に行かなければならないのだそうです。別に作業所がイヤなのではなく、就きたい職種への門戸を、もっと広げてほしいということなのだそうです。「障害」者問題についても、「障害」者を解放していくような運動を起こさねばならないと思います。それは、「障害」者だけが取り組む運動ではなく、我々「健全」者も一緒にになって取り組まねばならない運動だと思います。運動を起こして、さまざまな保障を勝ち取らないと！就労、経済、住居、生活などの保障をね！

ところでみなさん、シャンテというロックグループを覚えているでしょうか？MY SKY第13号で紹介したのですが、視覚「障害」をもつ男性3人と、手話をする女性ボーカリスト1人の計4人組のロックバンドです。『自分たちの可能性をつぶされてたまるか！』ってえな感じで、実にいろんなことに挑戦を挑んでいる人々です。そのシャンテが、来年の2月1日、お隣の藍住町へコンサートにやってきます。是非ともみなさんにも参加してき

てほしいと思います(私も行きます)。ご希望の方は、代金を持って私まで申し出て下さい。みんなでロックを楽しみましょう！

なおシャンテのプロモーションビデオ(90分ぐらい)を持っていますので、興味ある方は借りに来て下さい！

と き：2月1日(土) 5：30開場 6：00開演

と ころ：藍住町民会館

チケット：前売券1500円 当日券2000円(私、吉成まで)



◇ これからの日程 ◇◇◇

板野町解放文化展も終わり、いよいよ^{とし}年の瀬もおしせまった感じですね。みんなのいろいろな作品も^{みごと}見事に展示されていました。部落解放、反差別の思いを、いろんな表現活動を通じて深めることも大切です。絵が得意な人は絵で、習字が得意な人は習字で、工作が得意な人は^{かく}工作で、その^{かく}隠れた^{はつき}能力を発揮していたと思います。

さて、毎年文化展の最後に行われる部落問題講演会ですが、今年は、^{せん}ご存じ江嶋修作先生の講演が行われました。その^{だいもく}題目も「あなたに愛が語れますか」です。江嶋先生らしく、素晴らしい、ユニークなテーマでしたね。その内容も、実際にあったことについての話がほとんどでしたから、わかりやすく、^{ぐたいてき}具体的でした。また是非ともお話をうかがいたいものです。



12月13日(金)・16日(月)・18日(水) 三者面談

15日(日) 南公会堂祭り(9:00～13:00：南公会堂)

20日(金) 学習会クリスマス会(16:00～19:30：南公会堂)

21日(土) 終業式



南公会堂まつり